

(6) 小学校外国語活動・外国語科、中学校外国語科

① 目標の改善

ア 目標の示し方

「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱で示した。

イ 言語活動の充実

小学校外国語活動・外国語科	中学校外国語科
中学年から外国語に慣れ親しみ、学習への動機付けを高めたうえで、高学年から段階的に文字を読むこと・書くことを加え、系統性を持たせた指導を行う。	学習した語彙・表現などを実際に活用する活動を充実させ、言語活動の実質化を図る。

② 内容構成の改善

ア 改善の方向性

小学校外国語活動	小学校及び中学校外国語科
「聞くこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」の三領域で設定した。	「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」の五つの領域別の目標を設定した。

イ 指導内容の充実

小学校外国語活動	外国語科
外国語を用いた言語活動を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませるようにすることとした。	言語の使用場面や言語の働きを取り上げ、語、文法事項などの言語材料を効果的に関連付けた言語活動とした。

ウ 学習指導の改善・充実

中学年	○聞くこと、話すことを中心とした外国語活動 ○外国語に慣れ親しみ、学習への動機付けを高める。 ○外国語を初めて学習することに配慮し、簡単な語句や基本的な表現を用いて友達との関わりを大切にしたい、体験的な言語活動を行う。
高学年	○段階的に文字を読むこと、書くことを加え、系統性を持たせた指導を行う。 ○「推測しながら読む」ことにつながるよう、音声で十分に慣れ親しんだ語句や基本的な表現について、音声と文字とを関連付けて指導する。 ○言語材料については、発達の段階に応じて、生徒が受容するものと発信するものがあることに留意して、指導すること。
中学校	○授業を英語で行うことを基本とすることを明記 ○語彙数は、現行1200語、改訂後、2200語から2500語程度になる。 ○学習した語彙、表現などを実際に活用する活動を充実させる。 ○言語材料については、発達の段階に応じて、生徒が受容するものと発信するものがあることに留意して、指導すること。

③ 授業改善のポイント

ア 小学校外国語活動

- 学校総体としての校内研修等の充実
 - ・校内研修の充実（年間5回程度、短時間の実施でも可）
 - ・授業研究会の実施（年間2回程度）
- 小中連携、小小連携の充実
 - ＜取組例＞
 - ・情報交換や交流授業の実施
 - ・カリキュラムや指導方法等の連携
- 教室英語の積極的使用
- 1単元を通した授業設計
 - ・授業を1時間で考えるのではなく、単元終末の児童の姿を明確にした上で単元の目標を設定する。
- コミュニケーション活動の充実
 - ・興味関心を高める場面設定、意味のやりとりの必然性、伝えたい内容慣れ親しませるための繰り返し指導、相手意識を持たせる。

小学校外国語活動・外国語科
 研修ハンドブックの活用
 をお願いします。

イ 中学校外国語科

「英語授業づくりのポイント」（平成29年7月21日付上教第638号）

「英語授業づくりのポイント」		
10 Points	内容	■ 項目
Point 1	目標設定等	■ CAN-DOリストの活用（更新、共有、達成状況の把握）
Point 2		■ 年間を見通したパフォーマンステストの計画と実施
Point 3		■ CAN-DOリストと関連した単元目標の設定
Point 4		■ 単元目標の到達に向けた本時の目標の設定
Point 5		■ 本時の目標の達成に向けた段階的な言語活動の設定
Point 6	授業	■ 授業時間に占める生徒の言語活動時間の割合50%以上
Point 7		■ 授業時間の教師の発話における英語使用割合50%以上
Point 8		■ 本時のまとめと振り返りの設定
Point 9		■ 単元毎の目標達成状況の把握
Point 10		■ 単元毎の単語や基本文の定着状況の把握
	まとめ・評価	

授業づくりについて、10のポイントを具体的な例を示しながら、まとめたものです。自身の授業の改善に役立ててください。